

2022年8月9日

2023年3月期 第1四半期決算の概況について

明治安田損害保険株式会社（取締役社長 酒井 明夫）では掲題について別添資料によりお知らせいたします。

《添付資料》

○ 2023年3月期 第1四半期 決算の概況



2023年3月期 第1四半期決算の概況

2022年8月9日

会社名 明治安田損害保険株式会社 URL <https://www.meijiyasuda-sonpo.co.jp/>
本店所在地 東京都千代田区神田司町2丁目11番地1
代表者 役職名 取締役社長
氏名 酒井 明夫
問合せ先責任者 役職名 収益管理部長
氏名 黒田 暁 TEL 03-3257-3471
連結決算の有無 無
親会社名 明治安田生命保険相互会社 親会社における当社の株式保有比率 100%

1. 経営成績（2022年4月1日～2022年6月30日）

	正味収入保険料	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
2023年3月期第1四半期	3,790	610	407
2022年3月期第1四半期	3,863	564	358

	1株当たり四半期純利益	正味損害率	正味事業費率
	円 銭	%	%
2023年3月期第1四半期	1,018 33	46.7	49.2
2022年3月期第1四半期	895 14	38.3	47.7

(注) 金額は記載単位未満を切り捨てており、諸比率は四捨五入により表示しております。また、マイナスの場合は△表示しております。以下の諸表も同様であります。

$$\begin{aligned} \text{○正味損害率} & \dots \frac{\text{正味支払保険金} + \text{損害調査費}}{\text{正味収入保険料}} \times 100 \\ \text{○正味事業費率} & \dots \frac{\text{諸手数料及び集金費} + \text{営業費及び一般管理費}}{\text{正味収入保険料}} \times 100 \end{aligned}$$

なお、営業費及び一般管理費は保険引受に係るものに限ります。

2. 財政状態（2022年6月30日現在）

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	67,490	25,579	37.9
2022年3月期	67,732	26,060	38.5

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 25,579百万 2022年3月期 26,060百万円

3. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	—	—	2,008 82	2,008 82
2023年3月期	—				

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数
(自己株式を含む)

2023年3月期1Q	400,000株	2022年3月期	400,000株
------------	----------	----------	----------

② 期末自己株式数

2023年3月期1Q	—株	2022年3月期	—株
------------	----	----------	----

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	2
2. 四半期財務諸表	3
(1) 四半期貸借対照表	3
(2) 四半期損益計算書	4
(3) 継続企業の前提に関する注記	5
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	5
(5) 会計方針の変更	5
3. 補足情報	6
(1) 当四半期の損益状況	6
(2) 種目別保険料・保険金	7
(3) 有価証券	8
(4) 単体ソルベンシー・マージン比率	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

- ・ 保険引受収益が41億52百万円、資産運用収益が1億19百万円となり、経常収益は42億73百万円となりました。一方、保険引受費用が26億9百万円、営業費及び一般管理費が10億52百万円となり、経常費用は36億63百万円となりました。
- ・ この結果、経常利益は6億10百万円となりました。経常利益に特別損失、法人税及び住民税、ならびに法人税等調整額を加減した四半期純利益は4億7百万円となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

- ・ 当第1四半期会計期間の総資産は、前事業年度に比べて2億42百万円減少し、674億90百万円となりました。純資産については、前事業年度に比べて4億81百万円減少し、255億79百万円となりました。

2. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円、%)

科 目	前事業年度 (2022年3月31日現在)		当第1四半期会計期間 (2022年6月30日現在)	
	金 額	構成比	金 額	構成比
(資 産 の 部)				
現 金 及 び 預 貯 金	3,326	4.91	1,443	2.14
金 銭 の 信 託	17,600	25.98	23,100	34.23
有 価 証 券	38,344	56.61	35,099	52.01
有 形 固 定 資 産	4,069	6.01	4,104	6.08
無 形 固 定 資 産	2,097	3.10	2,020	2.99
そ の 他 資 産	2,078	3.07	1,559	2.31
そ の 他 の 資 産	2,078		1,559	
繰 延 税 金 資 産	216	0.32	162	0.24
資 産 の 部 合 計	67,732	100.00	67,490	100.00
(負 債 の 部)				
保 険 契 約 準 備 金	23,922	35.32	23,565	34.92
支 払 備 金	5,965		5,699	
責 任 準 備 金	17,956		17,865	
そ の 他 負 債	16,765	24.75	17,429	25.82
債 券 貸 借 取 引 受 入 担 保 金	14,616		16,039	
未 払 法 人 税 等	358		121	
そ の 他 の 負 債	1,790		1,268	
賞 与 引 当 金	114	0.17	42	0.06
特 別 法 上 の 準 備 金	869	1.28	873	1.29
価 格 変 動 準 備 金	869		873	
負 債 の 部 合 計	41,672	61.52	41,910	62.10
(純 資 産 の 部)				
株 主 資 本				
資 本 金	10,000	14.76	10,000	14.82
資 本 剰 余 金	8,455	12.48	8,455	12.53
利 益 剰 余 金	6,322	9.33	5,926	8.78
株 主 資 本 合 計	24,777	36.58	24,381	36.13
評 価 ・ 換 算 差 額 等				
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	1,282	1.89	1,197	1.77
評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計	1,282	1.89	1,197	1.77
純 資 産 の 部 合 計	26,060	38.48	25,579	37.90
負 債 及 び 純 資 産 の 部 合 計	67,732	100.00	67,490	100.00

(2) 四半期損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前第1四半期累計期間 〔2021年 4月 1日から 2021年 6月30日まで〕	当第1四半期累計期間 〔2022年 4月 1日から 2022年 6月30日まで〕
	金 額	金 額
経 常 収 益	4,019	4,273
保 険 引 受 収 益	3,869	4,152
(うち正味収入保険料)	(3,863)	(3,790)
(うち収入積立保険料)	(0)	(-)
(うち積立保険料等運用益)	(5)	(4)
(うち支払備金戻入額)	(-)	(265)
(うち責任準備金戻入額)	(-)	(91)
資 産 運 用 収 益	148	119
(うち利息及び配当金収入)	(127)	(110)
(うち有価証券売却益)	(23)	(11)
(うち金銭の信託運用益)	(2)	(2)
(うち積立保険料等運用益振替)	(△ 5)	(△ 4)
そ の 他 経 常 収 益	1	1
経 常 費 用	3,454	3,663
保 険 引 受 費 用	2,431	2,609
(うち正味支払保険金)	(1,272)	(1,574)
(うち損害調査費)	(207)	(193)
(うち諸手数料及び集金費)	(845)	(841)
(うち満期返戻金)	(1)	(-)
(うち支払備金繰入額)	(91)	(-)
(うち責任準備金繰入額)	(11)	(-)
営 業 費 及 び 一 般 管 理 費	1,023	1,052
そ の 他 経 常 費 用	0	0
経 常 利 益	564	610
特 別 損 失	4	4
固定資産処分損	-	0
特別法上の準備金繰入額	4	4
価格変動準備金繰入額	4	4
税 引 前 四 半 期 純 利 益	560	606
法 人 税 及 び 住 民 税	161	112
法 人 税 等 調 整 額	40	86
法 人 税 等 合 計	202	199
四 半 期 純 利 益	358	407

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当ありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当ありません。

(5) 会計方針の変更

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期財務諸表に与える影響はありません。

3. 補足情報

(1) 当四半期の損益状況

(単位：百万円、%)

科 目	前第1四半期累計期間	当第1四半期累計期間	比較増減	増減率
	2021年4月1日から 2021年6月30日まで	2022年4月1日から 2022年6月30日まで		
元受正味保険料（含む収入積立保険料） （元受正味保険料）	4,254 (4,254)	4,262 (4,262)	7 (7)	0.2 (0.2)
保 險 引 受 収 益 （うち正味収入保険料） （うち収入積立保険料）	3,869 (3,863) (0)	4,152 (3,790) (-)	283 (△73) (△0)	7.3 (△1.9) (△100.0)
保 險 引 受 費 用 （うち正味支払保険金） （うち損害調査費） （うち諸手数料及び集金費） （うち満期返戻金）	2,431 (1,272) (207) (845) (1)	2,609 (1,574) (193) (841) (-)	178 (301) (△13) (△4) (△1)	7.3 (23.7) (△6.7) (△0.5) (△100.0)
資 産 運 用 収 益 （うち利息及び配当金収入） （うち有価証券売却益）	148 (127) (23)	119 (110) (11)	△28 (△17) (△12)	△19.3 (△13.5) (△51.6)
営 業 費 及 び 一 般 管 理 費 （保険引受に係る営業費及び一般管理費）	1,023 (996)	1,052 (1,024)	29 (28)	2.9 (2.9)
そ の 他 経 常 損 益	1	1	△0	△4.2
経 常 利 益 （保険引受利益）	564 (441)	610 (517)	46 (76)	8.2 (17.3)
特 別 損 失	4	4	0	4.7
特 別 損 益	△4	△4	△0	-
税 引 前 四 半 期 純 利 益	560	606	45	8.2
法 人 税 及 び 住 民 税	161	112	△49	△30.8
法 人 税 等 調 整 額	40	86	46	114.9
法 人 税 等 合 計	202	199	△3	△1.7
四 半 期 純 利 益	358	407	49	13.8
諸比率				
正味損害率	38.3%	46.7%		
正味事業費率	47.7	49.2		

(注) 保険引受利益＝保険引受収益－(保険引受費用＋保険引受に係る営業費及び一般管理費)±その他収支

なお、その他収支は自動車損害賠償責任保険等に係る法人税相当額などです。

(2) 種目別保険料・保険金

元受正味保険料（除く収入積立保険料）

（単位：百万円、％）

種 目	前第1四半期累計期間 〔2021年4月1日から 2021年6月30日まで〕		当第1四半期累計期間 〔2022年4月1日から 2022年6月30日まで〕		対前年増減 (△)率
	金 額	構 成 比	金 額	構 成 比	
火 災	113	2.7	98	2.3	△12.9
傷 害	3,476	81.7	3,465	81.3	△0.3
自動車損害賠償責任	—	—	—	—	—
賠償責任	199	4.7	195	4.6	△2.3
信用	240	5.6	288	6.8	20.1
労働者災害補償責任	179	4.2	174	4.1	△2.7
その他の	44	1.1	39	0.9	△11.8
合 計	4,254	100.0	4,262	100.0	0.2

正味収入保険料

（単位：百万円、％）

種 目	前第1四半期累計期間 〔2021年4月1日から 2021年6月30日まで〕		当第1四半期累計期間 〔2022年4月1日から 2022年6月30日まで〕		対前年増減 (△)率
	金 額	構 成 比	金 額	構 成 比	
火 災	46	1.2	△9	△0.2	△120.2
傷 害	3,217	83.3	3,177	83.8	△1.2
自動車損害賠償責任	78	2.0	83	2.2	6.1
賠償責任	157	4.1	146	3.9	△7.2
信用	153	4.0	184	4.9	19.9
労働者災害補償責任	164	4.2	165	4.4	0.6
その他の	44	1.2	41	1.1	△6.7
合 計	3,863	100.0	3,790	100.0	△1.9

正味支払保険金

（単位：百万円、％）

種 目	前第1四半期累計期間 〔2021年4月1日から 2021年6月30日まで〕		当第1四半期累計期間 〔2022年4月1日から 2022年6月30日まで〕		対前年増減 (△)率	正 味 損 害 率 (比較増減(△))
	金 額	正 味 損 害 率	金 額	正 味 損 害 率		
火 災	94	222.5	235	—	148.3	(—)
傷 害	977	36.3	1,155	42.0	18.3	(5.7)
自動車損害賠償責任	144	182.6	117	140.5	△18.3	(△42.1)
賠償責任	51	34.5	6	7.8	△86.9	(△26.7)
信用	0	4.3	8	7.9	1,821.7	(3.7)
労働者災害補償責任	2	1.7	27	17.0	1,271.1	(15.3)
その他の	2	6.6	22	54.9	742.4	(48.3)
合 計	1,272	38.3	1,574	46.7	23.7	(8.3)

(注) 正味損害率は正味支払保険金に損害調査費を加えて算出しております。

(3) 有価証券

1. 満期保有目的の債券

(単位：百万円)

種 類	前事業年度 (2022年3月31日現在)			当第1四半期会計期間 (2022年6月30日現在)		
	貸借対照表 計上額	時 価	差 額	貸借対照表 計上額	時 価	差 額
公 社 債	16,604	17,343	739	16,174	16,846	671
外 国 証 券	—	—	—	—	—	—
そ の 他	—	—	—	—	—	—
合 計	16,604	17,343	739	16,174	16,846	671

2. その他有価証券

(単位：百万円)

種 類	前事業年度 (2022年3月31日現在)			当第1四半期会計期間 (2022年6月30日現在)		
	貸借対照表 計上額	取得原価	差 額	貸借対照表 計上額	取得原価	差 額
公 社 債	2,710	2,698	11	—	—	—
株 式	—	—	—	—	—	—
外 国 証 券	—	—	—	—	—	—
そ の 他	19,028	17,258	1,769	18,922	17,258	1,663
合 計	21,738	19,957	1,781	18,922	17,258	1,663

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められるその他有価証券は、上表に含まれていません。

(4) 単体ソルベンシー・マージン比率

(単位：百万円、%)

区分	前事業年度 (2022年3月31日現在)	当第1四半期会計期間 (2022年6月30日現在)
(A) 単体ソルベンシー・マージン総額	41,237	41,708
資本金又は基金等	23,973	24,381
価格変動準備金	869	873
危険準備金	23	23
異常危険準備金	12,249	12,257
一般貸倒引当金	—	—
その他有価証券評価差額金・繰延ヘッジ損益(税効果控除前)	1,603	1,497
土地の含み損益	1,550	1,550
払戻積立金超過額	—	—
負債性資本調達手段等	—	—
払戻積立金超過額及び負債性資本調達手段等のうち、 マージンに算入されない額	—	—
控除項目	—	—
その他	966	1,125
(B) 単体リスクの合計額	2,896	2,946
$\sqrt{(R_1+R_2)^2+(R_3+R_4)^2+R_5+R_6}$		
一般保険リスク (R ₁)	1,817	1,819
第三分野保険の保険リスク (R ₂)	—	—
予定利率リスク (R ₃)	4	4
資産運用リスク (R ₄)	1,449	1,517
経営管理リスク (R ₅)	75	76
巨大災害リスク (R ₆)	493	497
(C) 単体ソルベンシー・マージン比率	2,847.6	2,831.0
$[(A) / \{(B) \times 1/2\}] \times 100$		

(注) 「単体ソルベンシー・マージン比率」とは、保険業法施行規則第86条(単体ソルベンシー・マージン)および第87条(単体リスク)ならびに平成8年大蔵省告示第50号の規定に基づいて算出された比率です。
 なお、当第1四半期会計期間の単体ソルベンシー・マージン比率は、巨大災害リスクの一部を前事業年度と同値とみなすなど、計算の一部を簡便化して算出しております。

<単体ソルベンシー・マージン比率>

・ 損害保険会社は、保険事故発生の際の保険金支払や積立型保険の満期返戻金支払等に備えて準備金を積み立てておりますが、巨大災害の発生や、損害保険会社が保有する資産の大幅な価格下落等、通常の予測を超える危険が発生した場合でも、十分な支払能力を保持しておく必要があります。

・ こうした「通常の予測を超える危険」を示す「単体リスクの合計額」(上表の(B))に対する「損害保険会社が保有している資本金・準備金等の支払余力」(すなわち単体ソルベンシー・マージン総額：上表の(A))の割合を示す指標として、保険業法等に基づき計算されたものが、「単体ソルベンシー・マージン比率」(上表の(C))であります。

・ 「通常の予測を超える危険」とは、次に示す各種の危険の総額であります。

- ①保険引受上の危険：保険事故の発生率等が通常の予測を超えることにより発生し得る危険(巨大災害に係る危険を(一般保険リスク)除く)
(第三分野保険の保険リスク)
- ②予定利率上の危険：実際の運用利回りが保険料算出時に予定した利回りを下回ることにより発生し得る危険
(予定利率リスク)
- ③資産運用上の危険：保有する有価証券等の資産の価格が通常の予測を超えて変動することにより発生し得る危険等
(資産運用リスク)
- ④経営管理上の危険：業務の運営上通常の予測を超えて発生し得る危険で上記①～③及び⑤以外のもの
(経営管理リスク)
- ⑤巨大災害に係る危険：通常の予測を超える巨大災害(関東大震災や伊勢湾台風相当)により発生し得る危険
(巨大災害リスク)

・ 「損害保険会社が保有している資本金・準備金等の支払余力」(単体ソルベンシー・マージン総額)とは、損害保険会社の純資産(社外流出予定額等を除く)、諸準備金(価格変動準備金・異常危険準備金等)、土地の含み益の一部等の総額であります。

・ 単体ソルベンシー・マージン比率は、行政当局が保険会社を監督する際に活用する客観的な判断指標のひとつですが、その数値が200%以上であれば「保険金等の支払能力の充実の状況が適当である」とされております。